

0. 文字

当言語の文字は、**対清音字**、**対濁音字**、**中立音字**、**半母音字**、**母音字**の五種類に分けられる。
又、順序, 文字, 音価, 名称は以下の通りである。

p	b	f	v	t	d	s	z	x	j
p	b	f	v	t	d	s	z	ʃ	ʒ
paf	baf	fat	vat	tas	das	sax	zax	xak	jak
k	g	m	n	c	r	l	w	y	i
k	g	m	n	r	ɹ	l	β	j	i
kap	gap	maf	naf	cat	rat	las	was	yax	ix
e	a	o	u						
e	a	o	u						
ek	ak	op	up						

- ※指示詞・数詞以外に二重母音は含まれない。
- ※母音字以外を総称して子音字という。
- ※異音や外来語の音写方法については別ファイル参照。

1. 在詞

指示代名詞、代名詞、名詞を在詞と呼ぶ。

1-1. 指示詞

必ず、語頭は大文字の母音字（事はL）、語末は"s","t","x","k"である。
以下に示すのは独立用法。係在用法は"a"を接尾。所有用法は"es"を接尾。

	単数	複数
一人称	As	Aos / Aes
二人称	Es	Eos

三人称		生物				非生物				
		人間		生物		物		事		
		単数	複数	単数	複数	単数	複数	単数	複数	
近称	男性	Ox	Oks	Oox	Is	Ios	Us	Uos	La	Lo
	女性	Os		Oos						
遠称	男性	Ot	Okt	Oot	It	Iot	Ut	Uot	Le	Li
	女性	Ok		Ook						

(事の指示代名詞には所有用法はない。)

1-2. 代名詞

必ず、語頭はL、語末は、"p, f, x, k"のどれかで終わる。
以下に示すのは独立用法。係在用法は"a"を接尾。所有用法は"es"を接尾。

	疑問	全体	部分	特定	選択	任意	譲歩	零
生物	Ap	Lop	Lep	Lup	Lip	Lax	Lox	Lex
非生物	Af	Lof	Lef	Luf	Lif	Lak	Lok	Lek

1-3. 名詞

必ず対清音字で終わる。
但し、固有名詞は大文字で始め、接辞が付く場合は-で繋ぐ。
語末が対清音字でない場合は、-sを付け、接尾辞はこのsより後に付ける。

又、-ilを接尾すると所有用法、-olを接尾すると補語となる。

2. 述詞

動詞と状態詞を述詞と呼ぶ。

2-1. 動詞

必ず、対濁音字で終わる。繋辞と代動詞を除いて完全他動詞。
(繋辞(Øとして存在)不完全自動詞、代動詞(soz)は完全自動詞。)

2-2. 状態詞

状態詞には、独立形、係在形、係述形の3つの形がある。
全て後置修飾する。又、被修飾語に近いものほど意味は強い。

2-2-1. 独立形(補語形)

語末は"o"。補語用法と係状用法の2つに分けられる。
補語となる用法。繋辞の後ろに置く。

2-2-2. 係在形

いわゆる形容詞。語末は"a"。
在詞を修飾する。つまり、代名詞や指示代名詞も非限定的に修飾できる。

2-2-3. 係述形

いわゆる副詞。語末は"e"。動詞、状態詞を修飾する。

3. 法詞

動詞の法を表す。語末は"n"。

直説法	(無標)
条件法	lin
命令法	nen
禁止法	min

←帰結節の動詞につく。

4. 態詞

動詞の態を表す。語末は"r"。

能動態	(無標)
受動態	der
中間態	nar

5. 時制詞

動詞の時制を表す。語末は"n"。

大過去	anan
過去	an
現在	(en)
通時	un
未来	on
大未来	onon

6. 相詞

動詞の相を表す。語末は"r"。

完成相	(無標)
将然相	sir
開始相	per
進行相	tor
完了相	mar
継続相	xur
終了相	nur
反復相	ker

7. 係詞

いわゆる前置詞。語末は"l"。

xalとfolは倒置、強調の場合のみ用いる。

又、係詞の語頭にaをつけると、係在用法となる。

属格はふつうeを使うが、後続語が母音で始まるとき、文末に置かれる場合はelを用いる。(e<el<nel)

主格	(xal)	～が
属格	e / el	～の
対格	(fol)	～を
与格	sul	～に
処格	til	～で
奪格	tol	～から
変格	xol	～まで
係格	lel	～の
様格	sal	～として
題格	kol	～について
欠格	del	～なしで
時格	kal	～に

具格	nul	～を使って
比格	jel	～より
受格	yul	～によって
状格	zel	～の状態で
並格	mol	～しながら
保格	pol	～したまま
従格	kul	～につれて
共格	vel	～と共に
喩格	xal	～のように
由格	mul	～のせいで
奉格	fel	～の為
同格	nol	～である
量格	tel	～である

8. 接続詞

語末は"m"。

	強	弱	略式
接続	lom	om	,
順接	zom	som	„
逆接	vam	fam	
原因	bam	pam	
結果	gom	kom	
程度	dim	tim	
条件	zem	sem	
譲歩	jem	xem	

連言	am	※略式:&
選言	em	※略式:/

※因果関係の強さによって使い分ける。

※接続の接続詞について、lomは順序、omは並列で使うことが多い。

※条件の接続詞について、zemは閉鎖条件、semは開放条件で使うことが多い。

9. 句詞

節詞と不定句詞を合わせて句詞と呼ぶ。

9-1. 節詞

toとneで挟む。

to ~ neは、名詞節を導く。

- ① neは文末では省略される。
- ② toをtaにすると形容詞節、teにすると副詞節となる。
 - ※ ta ~ neは関係詞節となり、要素を1つだけ欠いた不完全文を~に置く。
 - ※ 関係副詞の用法はない。係詞を後続の節内に残す。
- ③ to ~ neの~に要素を1つだけ欠いた不完全文を置くと、先行詞を内包する関係詞節になる。

9-2. 不定句詞

doとneで挟む。

do ~ neは、名詞句を導く。

- ① neは文末では省略される。
- ② 不定句詞は、強制的に品詞を変換するのに使う。
- ③ doをdaにすると形容詞句、deにすると副詞句になる。
- ④ 主語は常に"一般"となる。
- ⑤ ~には動詞句のみをとる。

10. 数詞

名詞にそのまま後置すると基数、語頭にaを付けて後置すると序数を表す。

名詞として用いる場合は語末にsを付ける。

0 xee	10 riu	20	riufe	=10*2
1 pia	11 riupia	30	riute	=10*3
2 fua	12 riufua	40	riuse	=10*4
3 tea	13 riutea	50	riuxe	=10*5
4 soa	14 riusoa	100	riufo	=10^2
5 xai	15 riuxai	150	riufo,riuxe	=10^2+10*5
6 kui	16 riukui	175	riufo,riume,xai	=10^2+10*7+5
7 mei	17 riumei	200	riufofe	=(10^2)*2
8 noi	18 riunoi	1000	riuto	=10^3
9 cau	19 riucau	10000	riuso	=10^4
		12345	pufutusuxai	
※赤字の数字を"数基"という。		12345	ruito,ruitofe,ruifote,ruise,xai	
		3.14	tea-lot-pusoa	
		$\frac{1}{5}$	pia-atol-xai	

- ① 原数字を並べると足し算になる。3桁以上では","を間に挟む。
- ② 原数字の二重母音をeにして並べると掛け算になる。
- ③ 原数字の二重母音をoにすると、指数となる。
- ④ 掛け算は、その左にあるもの全体に掛かる。
- ⑤ 10000超の数字は、各位ごとに原数字で数字を読み上げる。その際、一の位以外、原数字の二重母音はuとなる。但し、 10^n で表せる数は③で表す。
- ⑤' "ruito,ruitofe,ruifote,ruise,xai"のように表しても良い。
- ⑥ 小数は、小数点より左を上記の方法で表し、小数点をlotと読み上げ、小数点より右は⑤の方法で表す。
- ⑦ 分数は、"分子-atol-分母"と言う。

11. 感動詞

語末は"u"。

12. 補助詞

他の品詞では表せない微妙なニュアンスを付け足す。語末は"i"。

重要なものを上げておくと、否定の補助詞mi, 決定疑問の補助詞piなどがある。
miは動詞句の前、piは文頭または文末に置く。(文末に置くと確認の意味になる。)

13. 語順

SVO, Pr, NA, GNである。

が、文意が一通りに定まるならば、SVOでなくても良い。

又、大文字を用いるのは、指示詞、代名詞、固有名詞の語頭のみとする。

但し、法詞・態詞・時制詞・相詞については、"法態 動時相"の順に並べる。

14. 用語解説

係在用法 在詞を修飾する用法。指示詞、代名詞も、非限定的に修飾できる。

所有用法 所有代名詞にあたる用法。(「～のもの」と訳す。)

15. 敬語

動詞の直後にesiを置くと尊敬語、asiを置くと丁寧語になる。(謙譲語はない。)

又、敬称については、名前に-esiを後置する。

16. 補足

① ハイフンで始まる接尾語は、ハイフンを付ける代わりに上付き文字でも表せる。